

マルチヘリコプタの概要について

マルチヘリコプタを2015年3月に事業導入
(対象業務:設備点検/ケーブル布設/被災状況確認)

項目		内容
機能	飛行距離	8000m
	飛行高度	地上比150m
	時間	15分
運用	積載量	1.2kg以下
	飛行可能風速	地上風速5.0m/s以下
	雨天使用	禁止
	目視確認範囲	500m

※気象、及び外部環境によって変動あり



マルチヘリコプタ本体



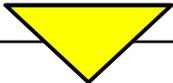
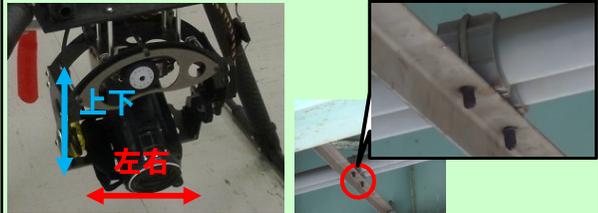
送信機



モニタ

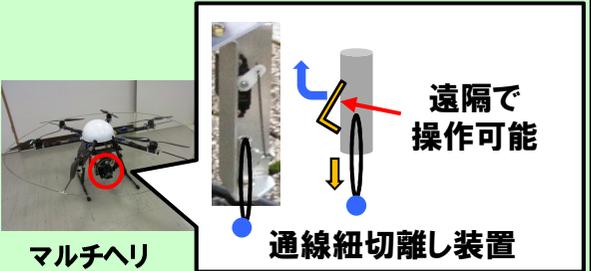
橋梁管路の設備点検業務について

インフラ設備の老朽化点検でマルチヘリコプタを導入
対象箇所を確実にかつ安価に点検が可能

項目	内容	イメージ
<p>従来</p> 	<p><u>特殊車両及び船舶等による点検</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 遠方目視が基本 ・ 目視困難箇所は特殊車両等での対応（追加費用が発生） 	 <p>特殊車両 船舶</p>
<p>今後</p>	<p><u>マルチヘリコプタによる点検</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目視困難箇所でも老朽化点検が可能 ・ 特殊車両等の費用削減 	 <p>撮影用カメラ 飛行経路</p>
<p>マルチヘリ 関連機能</p>	<p>送信機で遠隔からカメラ操作が可能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 上下左右方向の操作 ・ ズーム/ワイド操作 	 <p>方向操作 (上下左右) ズーム/ワイド操作</p>

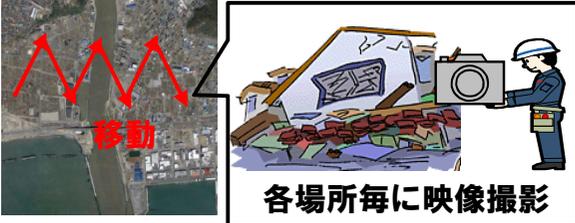
ケーブル布設業務について

**危険箇所におけるケーブル布設でマルチヘリコプタを導入
危険箇所において安全かつ正確な通線が可能**

項目	内容	イメージ
<p>従来</p> 	<p>危険作業及び特殊機器による通線</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 宙乗り、急斜面等での危険作業 ・ 船舶やランチャー等の特殊機器 	 <p>宙乗り</p> <p>船舶</p>
<p>今後</p>	<p>マルチヘリコプタを活用した通線</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 危険/立入困難箇所でも安全に通線可能 ・ 目的地に正確に通線可能 ・ 特殊機器の手配が不要 	 <p>通線紐切離し装置</p> <p>通線紐</p> <p>長野県白馬</p>
<p>マルチヘリ 関連機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 送信機で遠隔から通線紐切離し操作 ・ 通線紐を目的地に精度良く投下可能 	 <p>マルチヘリ</p> <p>遠隔で操作可能</p> <p>通線紐切離し装置</p>

被災状況確認業務について

災害時における被災状況確認でマルチヘリコプタを導入
復旧活動において迅速かつ正確な対策及び対応が可能

項目	内容	イメージ
<p>従来</p> 	<p><u>徒歩／バイク等による被災状況確認</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・局所的かつ部分的な情報収集 ・立入困難箇所での状況確認が困難 	 <p>各場所毎に映像撮影</p>
<p>今後</p>	<p><u>マルチヘリコプタによる被災状況確認</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・広範囲における総合的な情報収集 ・上空から立入困難箇所の確認が可能 ・災害対策室とリアルタイム情報連携 	 <p>宮城県石巻</p>
<p>マルチ ヘリコプタ 関連機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社内で被災状況詳細まで把握可能 ・社内から迅速かつ正確な指示が可能 ※システム内で設備情報等と同期可能 	 <p>災害対策室</p> <p>飛行映像</p> <p>飛行経路</p>